

旧イタリア大使館別荘

栃木県日光市中宮祠

栃木県の奥日光、中禅寺湖の北側の湖畔に、1928（昭和3）年に建てられた瀟洒な木造住宅が残されている。旧イタリア大使館別荘である。設計はアントニン・レーモンド。1920（大正9）年、旧帝国ホテルの設計監理のために建築家フランク・ロイド・ライトと共に来日し、以後約40年にわたって日本の建築界に多大な影響と足跡を残した大家だ。

玄関ホールから屋内に入るとすぐにリビング、その両サイドに暖炉のある書斎と食堂がワンルーム仕様でつながっている。正面は一面にガラス戸を設えた広縁が伸びる。中禅寺湖の借景がなんと贅沢だ。外壁を含め、壁から天井にかけては日光杉を惜しむことなくふんだんに使っている。室内の壁面は塗装が一切なく、杉皮を市松・亀甲・矢羽模様のパッチワークで敷き詰め、柱や杉皮は砂で磨かれ独特の風合いを醸している。家の中にその地ならではの自然を取り込みながら、その恩恵を享受しようとしたレーモンドの趣向を、日光の名棟梁であった赤坂藤吉が精魂込めて体現した結果だという。レーモンドは後年、師であるライトの威光から脱することに腐心したと述べているが、その志はこの別荘からも十分に伝わってきた。

ソファに腰を下ろしおよそ90年前の空気を感じ取ろうとする。新聞や本のページを繰る音、コーヒーカップやスプーンの触れ合う音。あらゆる生活音を室内の空間が優しく受け止めていたに違いない。木造建築ならではの時間の流れ方を確かに体感することができた。



1997（平成9）年まで歴代の大使が実際に別荘として使用していた。翌年に栃木県の公共施設となり改修、復元から2年後にイタリア大使館別荘記念公園として公開された。建設時の資材や建具等を可能な限り再利用している。室内の壁に触れると当時のぬくもりが伝わってくる。

